

第1陣支援団からの第二報 原国先生からの報告です

「大変な状況だよ」—— 日ごろ冷静な原国先生が、避難所回りで医療相談を受けながら極めてショックをうけた感想を次のように報告してきました。

血圧220の人、低酸素血症で救急搬送される人

- 清水先生と、午前中、小学校、中学校を避難所に行っている方々のところを回った。二ヶ所とも500人の被災者でひしめき合っている。みんな疲れきっている。医療相談で来たことを伝えたら、次々に症状を訴えられた。下痢が続いている人、血圧が高くなっている人、中には220の人もいた。血圧の薬が切れている人も。風邪薬や軟膏、下痢止めなどの処方したが、医薬品も絶対的に不足している。子どものオムツかぶれもひどい。避難所から低酸素血症で救急搬送された人もいた。
- 午後からは、2000人規模で避難所になっている公会堂をまわった。人があふれ、階段や廊下に段ボールを敷いて避難している。4人の医師が医療相談コーナーを始めたら殺到し、相談にのりきれない状態だった。
- ショックだったのは、小学校の教室を回ったら、全ての机の上に整然とランドセルが並べられていたこと。地震で緊急避難したままになっている。

坂総合病院——新垣潔さんからの報告

- インフルエンザの患者が増えてきた。現在、380床稼働。
- 看護師が帰宅できない状況(車のガソリンがない)が続く疲れがひどい。坂総合は、23日から通常勤務に戻すことになったようだが、坂以外はとても手が回らない状況。
- 重油が少し補充された。塩釜市と交渉し、坂総合に車10台分のガソリンを回す約束とりつけた。
- 余震が続いている、昨夜は3回。お湯が出ないので風呂は入れない。

親の顔とダブって辛い —— 与儀幸子師長からのメール

自分のご両親も震災にあい(宮城県大崎—安否確認・大丈夫)ながらも、坂総合で懸命に救援活動の与儀師長に、県連から「一段落ついたら、ご両親の元へ行ってあげる」ことを勧めたら、次のメールが届きました。

ご心配ありがとうございます。

移動手段が簡単ではないために諦めていました。泉病院に立ち寄った時に弟家族とは会えました。ガソリン不足のために車を動かさず弟家族に持参した救援物資をたくしました。災害本部の事業所に行く車に、古川民主病院まで乗せもらう方法も考えて見ましたが大変な取り込みのところにとってもお願い出来ません。職員は流れた家に行って見ることも出来ずに仕事について病院を守っています。昨夜12時間救急外来夜勤に入りました。避難所から搬送されて来るケースを看っていて親の顔とダブってしまい辛いものもありますがライフラインが復旧したら出直します。今日も同じ勤務です。自分の体力を守ってその支援です。

報告です

RBC ラジオが大地震救援の特番をくみます。沖縄民医連の支援者からインタビューを受けることになり、与儀師長が応えます。

3月21日(月)
午後7時～8時

(5分程度、電話でのインタビュー)